

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 子ども育成課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1-1 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり 1-4 「にのみやLife」の提案と発信 2-2 子育てと仕事の両立の推進
分野別方針	子育て・子育て、教育		実施計画事業	保育サービス充実事業 (No.17)
予算等事業名	子ども・子育て支援給付経費			
目的	保育園、認定こども園、幼稚園、少人数で子どもを預かる家庭的保育等への支援をし、また、公立保育園を運営することにより保育サービスを確保するとともに、多様な保育ニーズに対応するためサービスの充実をすすめる。			
内容	児童福祉の向上を図るため、民間保育所等の運営に係る費用を給付する。			
根拠法令・条例等	児童福祉法 子ども・子育て支援法			
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		子ども・子育て制度に基づき算定した費用により給付を行っているため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		平成27年度施行の子ども・子育て支援制度は平成28年度も改定されより量の拡充や質の向上が図られているため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 計画に基づき、引き続き事業を推進していく。			

総合評価

実績	待機児童数 平成28年4月1日 0人、平成28年10月1日 5人			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	待機児童数			
中期(28年度)目標値	0人			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
単位:				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	4月1日時点での待機児童数
	0人	5人		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		346,780	343,724	381,515			
財源内訳	一般財源	85,920	109,238	125,813			
	国庫支出金	111,096	98,767	114,723			
	県支出金	66,237	62,908	61,929			
	その他	83,527	72,811	79,050			

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 子ども・子育て支援法に基づき、認可保育所等の維持管理のために施設型給付費等を支弁することが決まっております、国、県、町で負担割合も決まっています。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 私立保育園の運営は各保育園で行っているが、子ども・子育て支援法に基づき、認可保育所等の維持管理のために施設型給付費等を支弁することが決まっています。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 両親等の共働きなどにより、保育に欠ける児童を認可保育所で適切に保育することが出来ている	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 子ども・子育て支援法に基づき、認可保育所等の維持管理のために施設型給付費等を支弁することが決まっております、国、県、町で負担割合も決まっています。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 子ども・子育て支援法に基づき、認可保育所等の維持管理のために施設型給付費等を支弁することが決まっております、国、県、町で負担割合も決まっています。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	子ども・子育て支援法に基づき、認可保育所等の維持管理のために施設型給付費等を支弁することになっているため、引き続き取り組む。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	平成28年4月1日は、待機児童が発生しなかったが、年々保育ニーズが高まってきており、年度途中で待機児童が発生をしているため、今後も私立保育園の協力が必要不可欠である。		
今後の方向性	引き続き、私立保育園に対し維持管理のために施設型給付費等を支弁する。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 子ども育成課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1-1 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり 1-4 「このみやLife」の提案と発信 2-2 子育てと仕事の両立の推進
分野別方針	子育て・子育て、教育		実施計画事業	保育サービス充実事業(No.17)
予算等事業名	百合が丘保育園運営事務経費			
目的	保育園、認定こども園、幼稚園、少人数で子どもを預かる家庭的保育等への支援をし、また、公立保育園を運営することにより保育サービスを確保するとともに、多様な保育ニーズに対応するためサービスの充実をすすめる。			
内容	児童福祉の向上を図るため、百合が丘保育園運営のための経費を支出する。			
根拠法令・条例等	児童福祉法			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		保育のニーズは年々高まっているため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		保育のニーズは年々高まっているため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 特別な事情がある児童の受入れのためにも、公立保育所は必要である。			

総合評価

実績	平成28年4月1日の待機児童0人			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	待機児童数			
中期(28年度)目標値	0人			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
単位:				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	4月1日時点での待機児童数(百合が丘保育園)
	0人	3人		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		25,160	23,601	24,278			
財源内訳	一般財源	18,924		17,307			
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	6,236		6,971			

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 公立保育所の運営に必要。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 児童数の増減に対し、公立保育所は緩衝機能の役割を果たしている。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 年々保育所利用のニーズが高まるなかで、私立の保育所に入所できない児童の受入れを実施。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 公立保育所の運営について、国等から補助が交付されないため、町の単独予算の中で運営を実施。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 <b>公立保育所は、特別な事情がある児童の受入れや緊急的な児童の受入れのために、今後も必要。</b>	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も公立保育所が必要であるが、施設の老朽化のため改修等の検討を行っていく必要がある。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	唯一の公立保育所として、町の子育て支援施策の重要な役割を担っている。		
今後の方向性	今後についても運営の効率化及び保育の充実に努める。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 子ども育成課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1-1 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり 1-4 「このみやLife」の提案と発信 2-2 子育てと仕事の両立の推進
分野別方針	子育て・子育て、教育		実施計画事業	保育サービス充実事業(No.17)
予算等事業名	百合が丘保育園維持管理経費			
目的	保育園、認定こども園、幼稚園、少人数で子どもを預かる家庭的保育等への支援をし、また、公立保育園を運営することにより保育サービスを確保するとともに、多様な保育ニーズに対応するためサービスの充実をすすめる。			
内容	児童福祉の向上を図るため、百合が丘保育園の施設維持管理のための経費を支出する。			
根拠法令・条例等				
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		公立保育所の維持管理のために必要。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		公立保育所の維持管理のために必要。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			B
	【説明】 建物の老朽化が進んでいるので、改修しつつ移転を検討していく。			

総合評価

実績	百合が丘保育園の維持管理経費			
中間評価との相違点	—			
事業指標(数値指標)	—			
中期(28年度)目標値	—			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
単位:				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	—
	—	—	—	

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		4,114	3,965	3,244			
財源内訳	一般財源	4,114	3,965	3,244			
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 公立保育所の維持管理に必要不可欠。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町の職員が直接維持管理を行うことで経費削減につながる。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 施設の老朽化が進んでいるため、計画的な改修等を行うことも含めて検討する必要がある。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 簡易な修繕については、職員が行ったりすることで必要最低限の費用で維持管理を行っている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 維持管理を引き続き行い、老朽化している箇所については修繕を実施していく必要がある。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	施設の老朽化がすすんでいるため、計画的に改修等の検討をする必要がある。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	保育所を利用している児童の処遇改善のため、施設の維持管理を継続して実施していく必要がある。
今後の方向性	施設の老朽化に伴う対応を計画的に検討する必要がある。

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 子ども育成課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1-1 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり 1-4 「このみやLife」の提案と発信 2-2 子育てと仕事の両立の推進
分野別方針	子育て・子育て、教育		実施計画事業	保育サービス充実事業(No.17)
予算等事業名	私立幼稚園教育推進事業			
目的	保育園、認定こども園、幼稚園、少人数で子どもを預かる家庭的保育等への支援をし、また、公立保育園を運営することにより保育サービスを確保するとともに、多様な保育ニーズに対応するためサービスの充実をすすめる。			
内容	児童福祉の向上を図るため、私立幼稚園の幼児教育の振興を図るための助成をする。			
根拠法令・条例等	二宮町私立幼稚園就園費補助金規則			
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		私立幼稚園の安定的な運営のため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		私立幼稚園の安定的な運営のため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 私立幼稚園の安定的な運営のためにも、継続していく必要がある。			

総合評価

実績	就園奨励費補助金交付児童数(満3歳児:11人、3歳児:77人、4歳児:83人、5歳児:89人)			
中間評価との相違点	—			
事業指標(数値指標)	—			
中期(28年度)目標値	—			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
単位:				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
	—	—	—	

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		45,980	44,205	45,883			
財源内訳	一般財源	37,202	32,990	37,089			
	国庫支出金	8,778	11,215	8,794			
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 幼児教育に対する保護者の経済的負担軽減のために必要。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 幼児教育に対する保護者の経済的負担軽減のために必要。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 保護者の経済的負担の軽減及び私立幼稚園の経営に対する助成を行うことで、成果をあげている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 少子化により園児が減少する中で、補助金等の交付について検討が必要。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 <b>私立幼稚園の安定的な運営ために引き続き事業を行っていく必要がある。</b>	
今後の方針 (課題・意見等を簡条書き)	私立幼稚園が、今後子ども子育て支援新制度に基づき施設給付型の幼稚園に移行を行う場合は、幼稚園の経営が大きく変わることとなるため、現在実施している補助金についても、大幅に見直しを行う必要がある。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	幼児教育の保護者負担の軽減並びに私立幼稚園の教育振興を図る必要がある。		
今後の方向性	子ども・子育て新制度への移行について、私立幼稚園が的確に判断できるよう情報共有に努める。		



平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 子ども育成課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1-1 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり 1-4 「このみやLife」の提案と発信 2-2 子育てと仕事の両立の推進				
分野別方針	子育て・子育て、教育		実施計画事業	保育サービス充実事業(No.17)				
予算等事業名	幼稚園・保育園連携事業							
目的	保育園、認定こども園、幼稚園、少人数で子どもを預かる家庭的保育等への支援をし、また、公立保育園を運営することにより保育サービスを確保するとともに、多様な保育ニーズに対応するためサービスの充実をすすめる。							
内容	幼稚園・保育園における連携事業							
根拠法令・条例等								
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					
2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		演劇の委託料、ラディアン使用料のみのため、削減は難しい。			
3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		町職員が、効率的に事業実施できるよう、各幼稚園、保育園と連携して計画、実施しているため、現状よりさらなる効率化は困難。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 今後も継続して事業を実施する。	

総合評価

実績	幼稚園保育園連携事業として、お互いの年長の児童を対象にラディアンで人形劇を実施し交流保育を行う。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	交流保育参加者数				
中期(28年度)目標値	300人			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	交流保育参加人数	
	277人				

		平成28年度		平成29年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		216	197	200			
財源内訳	一般財源	216	197	200			
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 各幼稚園及び保育園の年長に交流の場の提供を行っている。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町内の各幼稚園及び保育園の年長に交流の場の提供するために必要。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 幼稚園、保育園の園児の交流の場になっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 演劇の委託料、ラディアン使用料のみのため。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 各幼稚園及び保育園の年長に演劇の上演を通して交流の場の提供を引き続き行っていく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	各幼稚園及び保育園の年長に演劇の上演を通して交流の場の提供を引き続き行っていく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	各幼稚園及び保育園の年長が演劇上演をとおり、交流する場となっているため。		
今後の方向性	交流保育を引き続き実施し交流の場の提供を行っていく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 子ども育成課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	1-1 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり 1-4 「にのみやLife」の提案と発信 2-2 子育てと仕事の両立の推進
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	地域子育て環境づくり事業(No.18)
予算等事業名	子育てサロン運営事業		
目的	地域の子育て支援の拠点として既存の子育てサロンを運営するとともに、拠点の拡充を図るため、新たなサロンの設置を検討する。		
内容	子育てサロンの運営・管理		
根拠法令・条例等	児童福祉法		
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施 <input type="checkbox"/> 一部委託あり <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他		

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	子育てサロンの利用のニーズは高く、子育て拠点として重要な事業であるため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	子育て拠点として多様な対応が必要である。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 今後も継続して実施する。	

総合評価

実績	百合が丘子育てサロン、栄通り子育てサロンの2ヶ所にて実施。平成25年度より、栄通り子育てサロンにおいて、第1・第3土曜日の開所を実施している。		
中間評価との相違点	—		
事業指標(数値指標)	利用者数		
中期(28年度)目標値	12,000人	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度 9,797人	平成29年度	平成30年度
	子育てサロン延べ利用者数		

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		8,981	8,563	9,106			
財源内訳	一般財源	3,527	2,479	3,488			
	国庫支出金	2,727	3,042	2,809			
	県支出金	2,727	3,042	2,809			
	その他	0	0	0			

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 親子等が気軽に集い、育児相談員等が相談に応じるなど、育児が安心してできるようサポートしている。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 保健センターの母子保健事業との連携を図ることで、一貫した母子の支援が可能となる。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 未就学児が親子で安心して遊べ、親子のみならず他の乳幼児とも交流をはかることができる。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 多くの利用者に対し、安全面に配慮し専門職等を配置し、相談にも応じるなど成果をあげている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 安心して子育てができる機会となるだけでなく、保護者の孤立化を防止し、ひいては虐待の防止や早期発見にもつながる場であるため、継続して事業を実施する。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	引き続き、安心して子育てができる機会となる場所を提供し、保護者目線の立場に立ち事業を推進していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	町内2ヶ所の子育てサロンは、就学前児童及び保護者に対する支援の拠点となっている。		
今後の方向性	親子が気軽に利用できる施設として、子育てサロンの運営の充実を図っていく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 子ども育成課		
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	1-1 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり 1-4 「このみやLife」の提案と発信 2-2 子育てと仕事の両立の推進		
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	地域子育て環境づくり事業(No.18)		
予算等事業名	子育て支援対策事業				
目的	地域の子育て支援の拠点として既存の子育てサロンを運営するとともに、拠点の拡充を図るため、新たなサロンの設置を検討する。				
内容	子育てサロンの充実、整備の検討				
根拠法令・条例等	—				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
<input type="checkbox"/>	③ 未実施				
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		整備について検討している段階であるため、費用はかかってない。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		整備について検討している段階であるため、費用はかかってない。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				C
	【説明】 町全体の計画として検討を要するため。				

総合評価

実績	—				
中間評価との相違点	—				
事業指標(数値指標)					
中期(28年度)目標値	0回		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	検討会議等開催回数	
	0回				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		0	0	0			
財源内訳	一般財源	0	0	0			
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 町の子育て支援施設の検討であるため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町の子育て支援施設の検討であるため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	C
	【説明】 検討には、町有地の土地利用や公共施設の再配置計画との調整が必要であるため。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 具体的な検討内容について再検討が必要である。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	C
	【説明】 検討方法について見直す必要がある。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	他の関係部署とも調整を行い、子ども・子育て会議の中で意見を聞き検討を行っていく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止			
理由	新たな子育て支援拠点の整備について、検討をしていく必要がある。		
今後の方向性	公共施設再配置計画等も考慮しつつ、庁内で検討を行い方向性を見出していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 子ども育成課		
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	1-1 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり 1-4 「このみやLife」の提案と発信 2-2 子育てと仕事の両立の推進		
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	親育ち推進事業(No.19)		
予算等事業名	そだれん普及事業				
目的	そだれんを開催し、親の子育ての技術の習得を促すことによる子育て支援を行う。				
内容	ペアレント・トレーニング(親訓練)及び児童虐待の予防を目的として講座の開催、普及に努める。				
根拠法令・条例等					
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input checked="" type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
<input type="checkbox"/>	③ 未実施				
②、③に対する理由	そだれんとして事業を開催できなくなったため。				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	そだれんは1回の講座が7日間であるが、開催日数を減らすなど検討する。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	そだれんは1回の講座が7日間であるが、開催日数を減らすなど検討する。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				C
	【説明】 そだれんとしての講座を開催できなくなったため、内容を見直し子育て講座を開催する。				

総合評価

実績	そだれん(怒鳴らない子育て練習講座)通常講座を1回実施。 平成28年度の年度途中でそだれんのライセンスの契約更新問題で開催ができなくなったため以降開催せず。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	参加者数 1名				
中期(28年度)目標値	44人			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	講座への参加者数	
	1人	—	—		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		137	4	-	-	-	-
財源内訳	一般財源	133	4	-	-	-	-
	国庫支出金	0	0	-	-	-	-
	県支出金	0	0	-	-	-	-
	その他	4	0	-	-	-	-

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	-
	【説明】 ライセンスの契約更新の問題で「そだれん」名称及び内容が使用出来なくなったため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	-
	【説明】 ライセンスの契約更新の問題で「そだれん」名称及び内容が使用出来なくなったため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	-
	【説明】 ライセンスの契約更新の問題で「そだれん」名称及び内容が使用出来なくなったため。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	-
	【説明】 ライセンスの契約更新の問題で「そだれん」名称及び内容が使用出来なくなったため。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	D
	【説明】 ライセンスの契約更新の問題で「そだれん」名称及び内容が使用出来なくなったため。	
今後の方針 (課題・意見等を簡条書き)	そだれんとしての講座を開催できなくなったため、内容を見直し子育て講座を開催する。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input checked="" type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	そだれんとしての講座を開催できなくなったため。		
今後の方向性	そだれんに変わるものとして、内容を見直し新たな子育て講座を開催する。		



平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 子ども育成課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	1-1 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり 1-4 「このみやLife」の提案と発信 2-2 子育てと仕事の両立の推進
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	子育て家庭への支援(No.20)
予算等事業名	小児医療費助成事業		
目的	0歳児から中学3年生までを対象に医療証を発行し、通院及び入院の医療費を助成する(小学生以上は所得制限有)。また、児童手当の支給(所得制限有、支給対象は中学生まで)を行う。未熟児に対し病院又は診療所に入院することを必要とする場合、その療育に必要な医療を給付する。		
内容	小児家庭の医療費を助成し、経済的負担の軽減を行い小児の健康増進を図る。		
根拠法令・条例等	二宮町小児の医療費の助成に関する条例		
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施 <input type="checkbox"/> 一部委託あり <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他		

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか	
<input type="checkbox"/>	① 検討できる
<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	平成27年10月から拡大し、平成28年度に当初より実施している事業であるため。

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか	
<input type="checkbox"/>	① 検討できる
<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	平成27年10月から拡大し、平成28年度に当初より実施している事業であるため。

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 子育て世帯の経済的負担の軽減及び定住促進の一環として、今後も継続していく。	

総合評価

実績	小児医療助成対象者 2,833人		
中間評価との相違点	—		
事業指標(数値指標)	—		
中期(28年度)目標値	—		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	—		
			支援の必要な世帯に対し適切に助成する。

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		90,729	76,697	86,931			
財源内訳	一般財源	73,578	60,994	70,081			
	国庫支出金						
	県支出金	17,150	14,975	16,849			
	その他	1	728	1			

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 小児の健康増進を図る中で、小児家庭の医療費を助成し、経済的負担の軽減を行っていく必要がある。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 小児の健康増進を図る中で、小児家庭の医療費を助成し、経済的負担の軽減を行っていく必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 子育て世帯の経済的負担の軽減につながっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 県の補助対象の所得制限額の引き上げを、引き続き要望していく。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 子育て世帯の経済的負担の軽減及び定住促進の一環として、今後も継続していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	子育て世帯の経済的負担の軽減及び定住促進の一環として、今後も継続していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	子育て世帯の経済的負担の軽減及び定住促進の一環として必要な事業であるため。		
今後の方向性	子育て世帯の経済的負担の軽減及び定住促進の一環として、今後も継続していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 子ども育成課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	1-1 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり 1-4 「にのみやLife」の提案と発信 2-2 子育てと仕事の両立の推進
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	子育て家庭への支援(No.20)
予算等事業名	児童手当支給事業		
目的	0歳児から中学3年生までを対象に医療証を発行し、通院及び入院の医療費を助成する(小学生以上は所得制限有)。また、児童手当の支給(所得制限有、支給対象は中学生まで)を行う。未熟児に対し病院又は診療所に入院することを必要とする場合、その療育に必要な医療を給付する。		
内容	中学生までの児童を養育している方に対し、児童の健全な育成と家庭における生活の安定を図るため手当を支給する。		
根拠法令・条例等	児童手当法		
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	児童手当法により、負担割合が決まっているため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	児童手当法により、負担割合が決まっているため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 児童手当法により支給が規定されているので、今後も継続していく。	

総合評価

実績	総支給額 366,455,000円、受給対象児童数 2,918人		
中間評価との相違点	—		
事業指標(数値指標)	現況届提出率		
中期(28年度)目標値	100%		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
単位:			
実績値	平成28年度	平成29年度	現況届提出数/現況届送付数
	99.77%	99.47%	

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費	372,250	366,566	371,960			
財源内訳	一般財源	56,980	56,359	56,871		
	国庫支出金	258,378	254,040	258,339		
	県支出金	56,892	56,167	56,750		
	その他	0	0	0		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 児童手当法により、国、県、町の負担割合が決まっている。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 児童手当法により、町が支給することとなっている。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 子育て世帯における生活の安定が図られている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 児童手当法により、国、県、町の負担割合が決まっている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 児童手当法により、支給が規定されているので、今後も継続。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	国の制度なので、同様に実施していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	子育て支援の一環として、児童手当法に基づき継続して支給する。		
今後の方向性	引き続き事業の継続をしていく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 子ども育成課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1-1 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり 1-4 「にのみやLife」の提案と発信 2-2 子育てと仕事の両立の推進
分野別方針	子育て・子育て、教育		実施計画事業	要支援児童への対応(No.21)
予算等事業名	児童相談事業			
目的	要保護児童対策地域協議会を開催し、児童虐待の防止及び関係機関との調整を図る。また、ひとり親家庭への支援を行う。			
内容	要保護児童対策地域協議会を開催し、児童虐待の防止及び関係機関との調整を図る。			
根拠法令・条例等	児童福祉法			
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		要保護・要支援ケースが増加し、かつ複雑・多問題を抱えているため、頻回な個別対応や会議等が増えている。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		ケースに深く関係している母子保健や児童相談所、教育委員会、学校など多くの関係機関と連携を図り実施している。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 今後も継続して実施していく。			

総合評価

実績	要保護児童対策協議会 代表者会議1回、実務者会議4回、ケース会議 随時開催 要保護児童 12世帯 15人 要支援ケース 65人		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)	要保護児童対策地域協議会の開催回数		
中期(28年度)目標値	5		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】 要保護児童対策協議会代表者会議1回、実務者会議4回の開催回数を目標値とした。他に関係機関と随時ケース会議を開催し連携を図る。
実績値	平成28年度	平成29年度	
	5		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		3,745	3,575	3,257			
財源内訳	一般財源	1,874	1,789	1,656			
	国庫支出金	1,871	1,786	1,601			
	県支出金	0	0	0			
	その他	0	0	0			

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 要保護、要支援の相談件数が増えてきており、住民の身近な相談窓口となっている。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 平成17年度より、法改正により市町村が児童相談窓口となっている。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 町の相談窓口が周知されてきており、相談等の件数は多くなっているが、早期に対応ができており重篤な状況は発生していない。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 虐待等の通告を受けて、関係機関と連携を図る。また、児童相談員や母子保健の部署とも連携をとり対応を行っていく。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 児童虐待通告の他、相談ケースも多く、その対応を行っている。非常勤の児童相談員として雇用している臨床心理士が児童や保護者の特徴を的確にとらえ、適切に保護者に助言や支援を継続的に行っており、親子関係に変化があらわれ改善するなど効果が見られる。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	ライフスタイルが多様化し、複雑な親子関係が発生する中で、専門の臨床心理士が相談対応することのメリットは大きい。また、親子のコミュニケーション不足等により、発達の遅れや育てにくさから虐待につながるケースもあるため、早期に臨床心理士が子どもへの関わり方を話すことにより、発達を促し、育てにくさを軽減または改善することにより、虐待発生の防止に努めていく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	児童虐待の早期発見、早期対応のためにも、要保護児童対策地域協議会の活動や、児童相談員(臨床心理士)の配置は有効である。		
今後の方向性	関係機関との連携を密にし対応する。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 子ども育成課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	1-1 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり 1-4 「このみやLife」の提案と発信 2-2 子育てと仕事の両立の推進
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	要支援児童への対応(No.21)
予算等事業名	ひとり親世帯関係経費		
目的	要保護児童対策地域協議会を開催し、児童虐待の防止及び関係機関との調整を図る。また、ひとり親家庭への支援を行う。		
内容	ひとり親家庭の自立、生活安定の一助として医療費を助成するとともに、これらの家庭において緊急一時ヘルパーを必要とする場合、助成する。		
根拠法令・条例等	二宮町ひとり親家庭等医療費助成事業実施要綱		
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他		

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	県下同条件で実施している事業ため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	県下同条件で実施している事業ため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		A
	【説明】 ひとり親家庭の自立、生活の安定の一助として、今後も継続していく。		

総合評価

実績	ひとり親医療受給世帯数 178世帯		
中間評価との相違点	—		
事業指標(数値指標)	—		
中期(28年度)目標値	—		
単位:	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	—	—	—
支援に必要な世帯に対し適切に助成する。			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		16,579	14,792	16,402			
財源内訳	一般財源	8,890	8,007	8,799			
	国庫支出金	0	0	0			
	県支出金	7,688	6,759	7,602			
	その他	1	26	1			

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 神奈川県下同条件で実施している事業。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 神奈川県下同条件で実施している事業。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 ひとり親家庭の自立、生活、生活の安定の一助となっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 県の補助対象事業となっている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 ひとり親家庭の自立、生活安定の一助として、今後も継続していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	ひとり親家庭の自立、生活安定の一助として、今後も継続していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	ひとり親世帯の経済的負担を軽減し、自立を支援するために継続した取り組みが必要である。		
今後の方向性	引き続き助成を行っていく。		



平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 子ども育成課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	1-1 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり 1-4 「このみやLife」の提案と発信 2-2 子育てと仕事の両立の推進
分野別方針	子育て・子育て、教育		実施計画事業	地域子育て推進事業(No.22)
予算等事業名	地域子育て支援事業			
目的	身近な地域での子育て支援を進めるため、ファミサポの運営、地域のコミュニティ保育、一時預かりへの支援を行う。			
内容	ファミリー・サポート・センター、地域のコミュニティ保育等地域における児童の健全な育成を図る。			
根拠法令・条例等	児童福祉法			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		子育て世帯を支援していくために必要。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		子育て世帯を支援していくために必要。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 保護者の多様なニーズに対応するため、身近な地域における子育て支援を継続して実施していく。			

総合評価

実績	ファミサポ会員:まかせて会員 52人、おねがい会員 119人、両方 12人、活動件数 928件 コミュニティ保育数:4団体			
中間評価との相違点	—			
事業指標(数値指標)	ファミサポ会員数			
中期(28年度)目標値	150人		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
	183人		—	

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		3,614	3,371	3,701			
財源内訳	一般財源	2,282	2,039	2,369			
	国庫支出金	666	666	666			
	県支出金	666	666	666			
	その他	0	0	0			

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 多様化する生活の中で、子育て世帯を支援していくために必要。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 ファミリー・サポート・センター等可能な事業については、既に委託している。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 ファミリー・サポート・センター事業については、年々会員数と活動件数が増加している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 コミュニティ保育は、年々会員数が減少してきており見直す必要がある。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 子育て世帯に対する不安や負担感を解消するために必要な事業であるため継続をしていく。	
今後の方針 (課題・意見等を簡条書き)	子育て世帯に対する不安や負担感を解消するために必要な事業であるため継続をしていく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持 <input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	保護者の生活の多様化により、様々なニーズに対応するために、地域の子育て支援を行う必要がある。
今後の方向性	ファミサポのまかせて会員の増強を進めるとともに、コミュニティ保育の充実をはかる。

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 子ども育成課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	1-1 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり 1-4 「このみやLife」の提案と発信 2-2 子育てと仕事の両立の推進	
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	地域子育て推進事業(No.22)	
予算等事業名	一時預かり事業			
目的	身近な地域での子育て支援を進めるため、ファミサポの運営、地域のコミュニティ保育、一時預かりへの支援を行う。			
内容	多様な保育ニーズに対応し、家庭における保育が一時的に困難となる児童の預かりを、百合が丘保育園、栄通りサロンにて実施する。			
根拠法令・条例等	児童福祉法			
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		利用者も多く子育て世帯を支援していくためには必要である。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		利用者も多く子育て世帯を支援していくためには必要である。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 保護者の多様なニーズに対応した子育て支援を継続して実施していく。			

総合評価

実績	一時預かり利用者数: 百合が丘保育園 延べ 153人、栄通り子育てサロン 延べ 292人			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	一時預かり利用者数			
中期(28年度)目標値	1464人		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	二宮町子ども・子育て支援事業計画
	445人			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		7,829	6,736	8,675			
財源内訳	一般財源	5,017	4,074	6,210			
	国庫支出金	982	982	982			
	県支出金	982	982	982			
	その他	848	698	501			

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 子育て世帯を支援していくために必要。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 町が実施することにより、円滑な利用が可能となる。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 百合が保育園、栄通り子育てサロンの2ヶ所で一時預かりを実施することにより、場所の選択ができる。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 一時預かりについては、利用料を徴収している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 子育て世帯に対する不安や負担感を解消するのに、必要な事業であるため継続をしていく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	平成27年度からの、子ども・子育て支援新制度に位置づけられており、継続して実施していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	保護者の疾病やリフレッシュなど、必要な時に利用できる一時預かりは、子育て支援を進めるうえで重要な事業である。		
今後の方向性	利用者が必要な時に支援できるように、受入れ体制の充実を図る。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	健康福祉部 子ども育成課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	1-1 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり 1-4 「このみやLife」の提案と発信 2-2 子育てと仕事の両立の推進	
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	放課後児童対策事業(No.23)	
予算等事業名	学童保育所維持管理経費			
目的	町内3ヶ所の学童保育所の維持管理及び、運営費に補助金を交付し地域における留守家庭児童の健全な育成を図る。			
内容	町内3ヶ所の学童保育所の維持管理及び、運営費に補助金を交付し地域における留守家庭児童の健全な育成を図る。			
根拠法令・条例等	児童福祉法			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施 <input type="checkbox"/> 一部委託あり <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> その他			

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		来年度より保護者会の運営から運営主体を変更し、社会福祉法人へ委託することに伴い、今年度途中から準備のための委託をする。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		来年度の学童保育の運営を委託する方向で今年度から準備を委託事業者と進めていく。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			B
	【説明】 来年度の委託に向けて、委託事業者、保護者会と連携していく。			

総合評価

実績	平成29年4月1日より、学童保育所の運営について社会福祉法人に委託を実施した。			
中間評価との相違点	—			
事業指標(数値指標)	小学校児童数に対する入所割合			
中期(28年度)目標値	10%			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
単位:				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
	13.97%	16.31%		5月1日時点での3学童入所児童/町内小学校児童

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		22,205	22,192	23,468			
財源内訳	一般財源	9,899	8,584	7,944			
	国庫支出金	6,153	6,804	7,762			
	県支出金	6,153	6,804	7,762			
	その他	0	0	0			

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 働く保護者が増える中、留守家庭児童対策として不可欠な事業。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 平成28年度までは、保護者会が学童保育の運営を行っており、町が補助金を支出していたが、平成29年度より運営を社会福祉法人に委託した。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 放課後に両親が共働き等により家庭で保育が行えない児童の健全育成に寄与している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 学校の空き教室等を利用し学童開設を行っているため、児童が放課後校外に出る必要がない。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 平成28年度までは、保護者会が学童保育の運営を実施していたが、平成29年度より運営を社会福祉法人に委託することにより、保護者の負担についても軽減を行っていく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	平成29年度より学童保育所の運営を社会福祉法人に委託することにより、保護者の負担についても軽減を行っていく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	学童保育所の安定的な運営並びに保護者への負担を軽減するために、社会福祉法人に運営委託することにより、学童保育の更なる充実を図る。		
今後の方向性	学童保育所の安定的な運営並びに保護者への負担を軽減するために、社会福祉法人に運営委託することにより、学童保育の更なる充実を図る。		